

平成30年度事業報告

1 記念セレモニーの実施

(1) 記念式典の実施（8月5日、北海きたえーる）

第1部では、天皇皇后両陛下御臨席のもと、式辞・祝辞及び未来への宣言・青少年の誓いがあった。トンコリ・ムックリの演奏などアイヌ民族の伝統芸能や、松前神楽や江差追分など地域の伝承芸能が披露された。

第2部では、お祝い映像メッセージや三重県松阪市・松浦武四郎記念館との中継、高校生によるパフォーマンスを実施した。

第3部では、本道にゆかりのあるアーティスト等によるスペシャルライブを開催。

このほかに、「北海道の未来トーク」や「北海道150年若者映像コンテスト決勝戦・表彰式」など、様々なプログラムを開催した。

会場	実施内容	来場者数
メインアリーナ	記念式典（第1部～第3部） ※	約2,900名
視聴覚室	記念式典パブリックビューイング	約400名
	北海道の未来トーク	約100名
	若者映像コンテスト決勝戦・表彰式	約100名
エントランスホール	パネル展示（パネルで見る北海道史・北海道遺産）	-
屋外	パートナー等ブース出展、ステージイベント	約2,500名

※ 記念式典の様子は、8月11日、テレビで放送した。（北海道テレビ放送（HTB））

(2) 北海道150年ウィーク（7月14日～8月26日）

道内外の各地で、様々な企業・団体がイベント等を開催した。

実行委員会は、オープニングイベント及びエンディングイベントを開催した。

① オープニングイベント（7月14日、赤れんが庁舎前庭等）

開会宣言、北海道150年記念ポスト除幕式・切手贈呈式（主催：日本郵便（株）北海道支社）、アイヌ伝承文化セレモニー（カムイノミ）、祝賀パフォーマンス（北海道警察音楽隊コンサート&ステージドリル、100人縄文太鼓、北海道150年セッション）を実施した。

（来場者数：約1,000名）

② エンディングイベント「北海道マラソン2018「チャレンジ・キッズラン」（8月26日、札幌市内）

全道の小学生が個人又はチームで42.195kmの完走を目指す取組。事前に計40kmを走っていた個人ランの参加者148名は、当日、残りの2.195kmを完走した。（北海道マラソン組織委員会との共催）

(3) 子ども未来・夢キャンパス（1月～12月）

道内の大学・高等専門学校等と連携し、科学実験やスポーツ体験等を通じて、子どもたちに夢を与え、学ぶ楽しさを伝える取組を実施した。（実施事業：47事業）

(4) ほっかいどうサイエンス・フェスティバル（8月6～7日、北海きたえーる）

米国マサチューセッツ工科大学（MIT）教授等による講演、特別展示、小中学生を対象とする体験実験等を実施した。（来場者数：約2,500名）

(5) 北海道姉妹友好提携地域ラウンド・テーブル・ミーティング 2018 (8月4日、札幌市内)
道の姉妹友好提携地域のうち6カ国8地域の代表が一堂に会し、各地域からのプレゼンテーション及び意見交換、道内高校生によるユースセッション、「共同宣言」を発表した。

(6) 子どもたちの交流事業 (7月～8月)

道内の小学生 59 名が、本道とゆかりのある三重県松阪市と佐賀県佐賀市を2班に分かれて訪問し、地元の小学生との交流や施設見学等を通して、各地の歴史や文化への理解を深めた。活動成果は各学校の全校集会などで報告するとともに、冊子「松阪日誌」「佐賀日誌」(各700冊作成)にまとめた。

(7) 北海道 150 年音楽祭 (12月26日、札幌コンサートホール Kitara)

北海道命名 150 年イヤーを締めくくるイベントとして、本道ゆかりのアーティストを中心とした音楽ライブやパフォーマンス、子どもたちの合唱を行った。

(来場者数：約 1,040 名)

(8) 記録誌・記録映像の作成

北海道 150 年事業の取組内容を伝える記録誌を 1,500 冊作成し、実行委員会委員、パートナー、スポンサー・サポーター等、関係者に配布した。

また、北海道 150 年ウィークオープニングイベント、北海道 150 年記念式典及び北海道 150 年音楽祭の記録写真及び記録映像を撮影した。

2 事業PRの実施

パートナーをはじめとする企業・団体、各メディア等の協力をいただきながら、道内外で、北海道 150 年事業のPRを実施した。

● 春・夏プロモーション【5月～7月】

- ・第22回北斗陣屋桜まつり (5/6 北斗市)
- ・第60回さっぽろライラックまつり (5/19～20 札幌市)
- ・芝ざくらまつり (5/27 滝上町)
- ・第27回YOSAKOIソーラン祭り (6/9～10 札幌市)
- ・第38回八千代牧場まつり (6/17 帯広市)
- ・買物公園まつり (6/30～7/1 旭川市)
- ・阿寒ふるさとまつり (7/22 釧路市)
- ・STV どさんこみらいフェス (7/27～28 岩見沢市)

● パートナー・実行委員会構成員と連携したPR【4月～12月】

<イベント>

- ・レバガ北海道ホームゲーム (4/14～15 札幌市)
- ・キリン北海道ビアフェスティバル in 千歳 (8/26 千歳市)
- ・北海道フェア in 代々木 (10/5～8 東京都) 等

<記事>

- ・エコチル北海道版5月号 (5/14 アドバコム)
- ・北海道新聞別刷 (7/14 北海道新聞社)
- ・読売新聞北海道支社版 (8/5 読売新聞東京本社) 等

● ウェブサイトを活用したPR【4月～3月】

- ・アクセス数：約 78 万 PV (4月～3月累計) ※平成 29 年 4 月開設からの累計：約 126 万 PV
- ・事業紹介記事更新：274 件 (4月～3月累計)

- P R 資材（ポスター、パンフレット、チラシ等）の作成【4月～12月】
 - ・ポスター：B2（300枚×2種）
 - ・チラシ：A4（10,000枚）、A3（5,000枚）
 - ・のぼり（50枚）
 - ・ポケットティッシュ（30,000個）、クリアファイル（10,000枚）、ボールペン（3,000本）、メモ帳（5,000冊）、シール（5,000枚）、うちわ（5,000枚） など
- 公式ガイドブック（第2版・第3版）の作成
 - ・第2版：A5版カラー32ページ 10,000冊【4月】 ※ 第1版は平成29年12月に作成
 - ・第3版：A5版カラー48ページ 30,000冊【7月】
- ロゴマークの使用承認【4月～12月】
 - ・承認件数：168件

3 北海道みらいメンバーシップの募集等（4月～12月）

寄附・協賛をいただく「スポンサー」、「サポーター」を募集した。

- スポンサー（ご寄附・ご協賛いただいた企業・団体等）
 - ・寄附・協賛：49企業・団体
 - ・物品協賛：32企業・団体
- サポーター（ご寄附いただいた個人）
 - ・寄附・協賛：4名

4 アドバイザーからの助言

アドバイザーの3名から、各分野及び事業全体に関して助言をいただいた。

- 小磯 修二氏（分野：開拓、開発の歴史）
- 東村 有三氏（分野：主催イベントの企画・演出）
- 本田 優子氏（分野：アイヌ文化）

5 総会の開催

補正予算の審議を行うため、総会を開催した。 【7月20日（書面）】

6 運営会議の開催

個別事業の企画、検討及び必要な調整を図るため、運営会議を開催した。

【5月21日、12月4日】

7 パートナー事業

パートナー165社が企画力やノウハウを生かし、実行委員会と連携して様々な取組を実施した。

- 自社主催イベント・商品・ウェブ等でのP R、フォーラムの開催、記念フェアの実施、記念商品の発売、新聞・雑誌での特集記事の掲載、記念テレビ・ラジオ番組の放送 等

8 北海道みらい事業

(1) 募集（4月～11月）・登録

- 登録：1,057事業
- 実施主体：道民、関係団体、企業、市町村等

(2) 支援（29年度～30年度）

- クラウドファンディングによる支援（パートナー：(株)ACT NOW）
 - ・ 12件（総額 5,858 千円）
- 北海道地域づくり総合交付金による支援（道予算により実施）

9 アンケート調査の実施（12月13日～1月31日）

北海道 150 年事業の成果等を把握するため、アンケート調査を実施した。

(1) 実施方法等

- 実施方法：インターネット等による
- 回答数：1,126 件

(2) 調査結果概要

- 150 年事業とのかかわり
「事業を自ら実施」「事業に参加」を合わせ 32.0%
- 印象に残った取組等（複数回答）
 - 「テレビ番組」(35.1%)
 - 「ロゴ付き商品」(33.4%)
 - 「報道記事、ニュース記事、ウェブ配信記事」(26.7%)（ほか）
- 北海道の魅力や価値について理解や関心が深まったものが「ある」：69.8%
 - 具体的な内容（複数回答）：「歴史、偉人」(69.1%)
 - 「アイヌ文化」(54.7%)
 - 「食」(33.2%)（ほか）

● 自由意見

<自ら実施・事業に参加した方々の意見>

「北海道 150 年の歴史と文化に触れるとともに、アイヌの歴史と文化を改めて知ることができた」

「今後も「つながり」を意識した取組を企画されることを期待する」

「道内での事業の広まりは確かで盛り上がりを感じましたが、道外でのプロモーションはもう少し充実させても良かったような気がしています」

など

<知っていたが不参加・知らなかった方々の意見>

「北海道を愛する気持ちを道民が持ち、さらに発展していけるものを継続的にできれば」

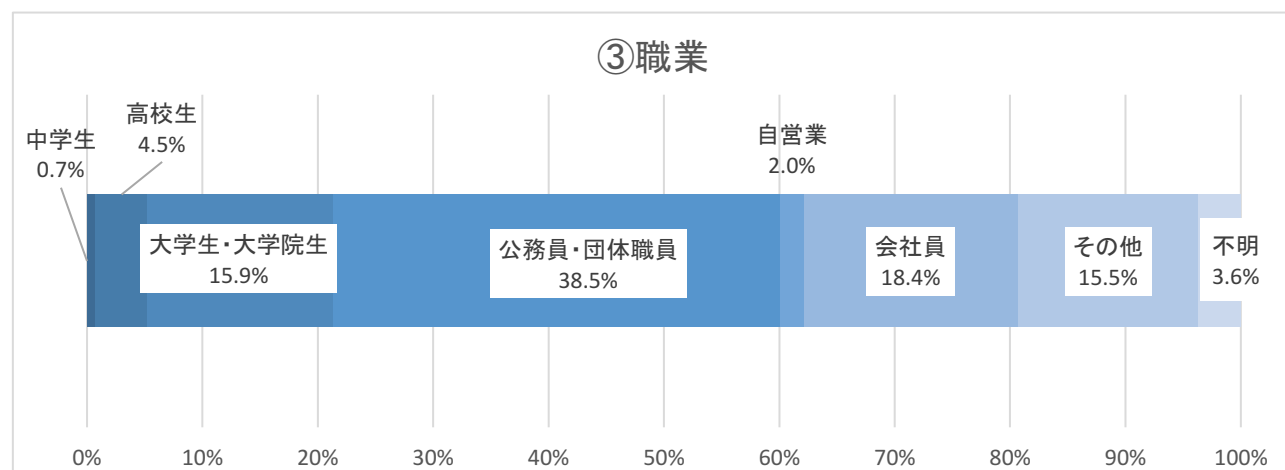
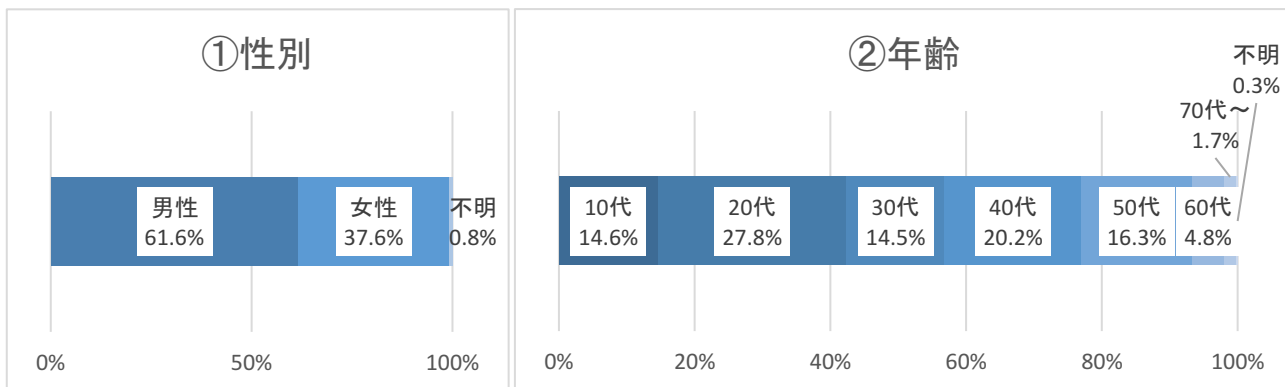
「札幌市だけで加熱し完結している印象を受けました」 など

北海道150年事業 アンケート調査結果

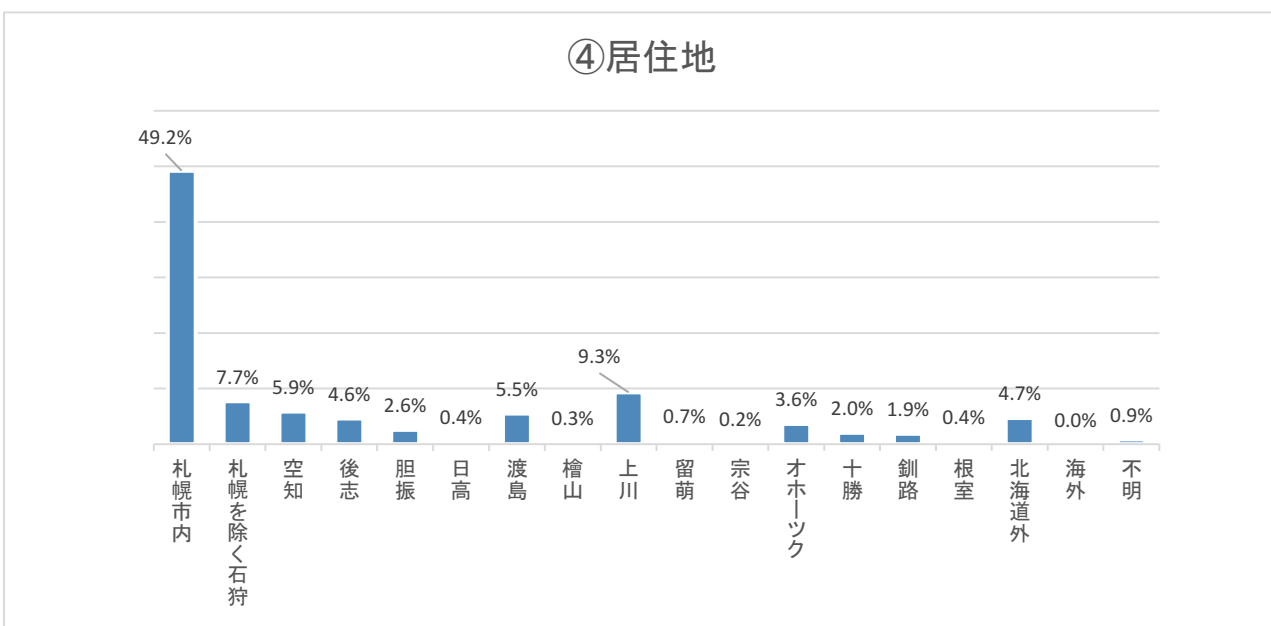
- 実施時期:2018年12月13日(木)~2019年1月31日(木)
- 実施方法:インターネット等による
- 回答数:1,126

北海道150年事業実行委員会

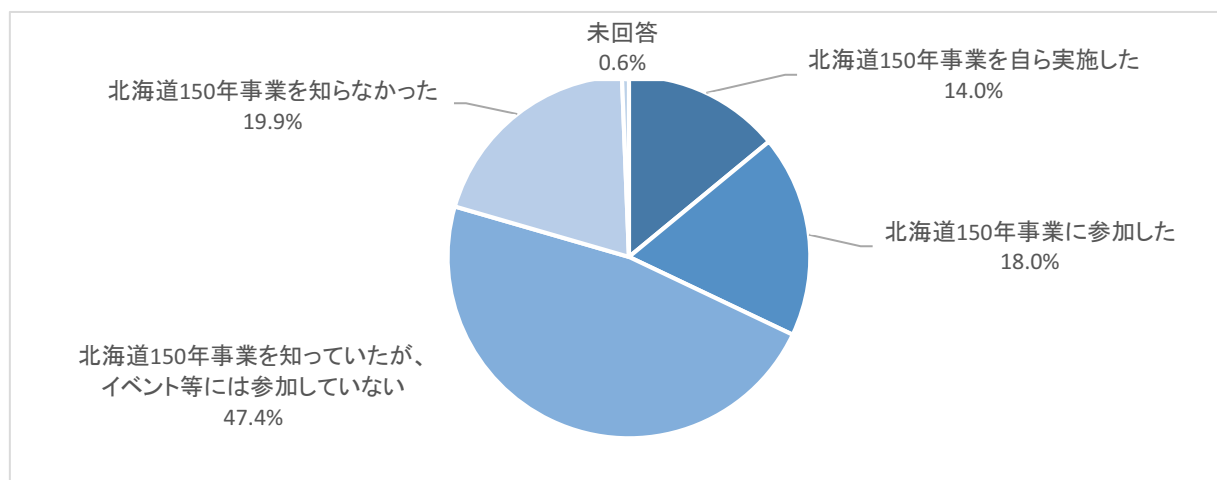
【基本情報】



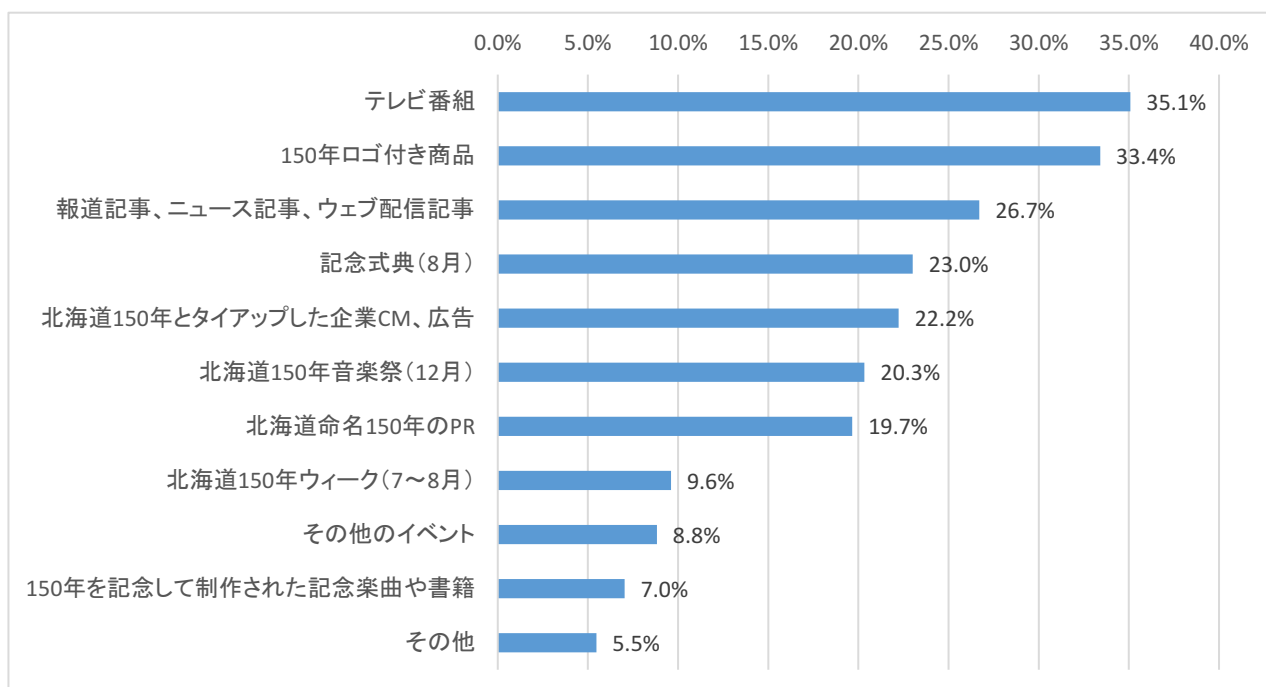
※公務員は道職員を除く



【1】北海道150年事業とのかかわり (n=1,126)



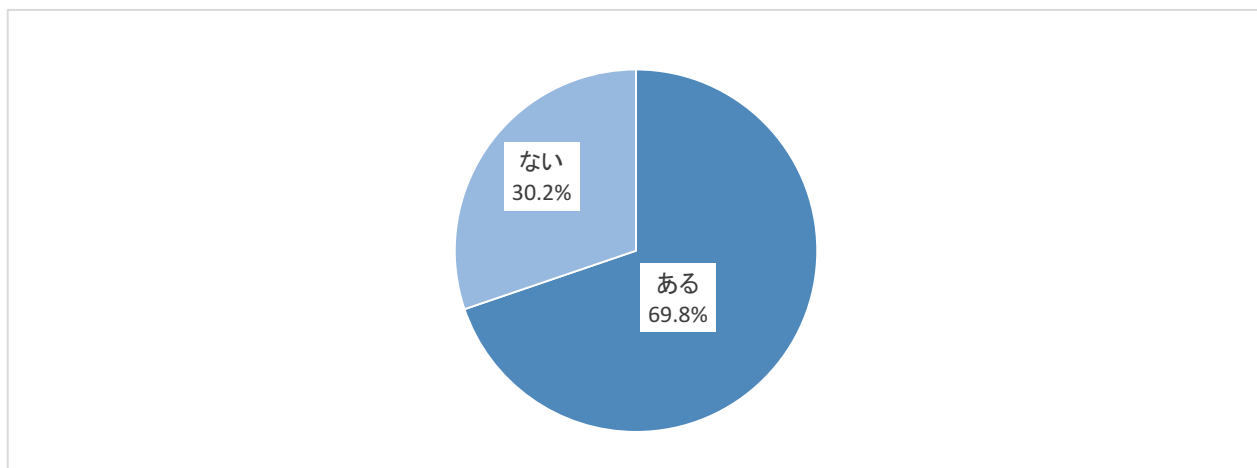
【2】北海道150年事業に関して、印象に残った取組やイベント等(複数回答) (n=895)



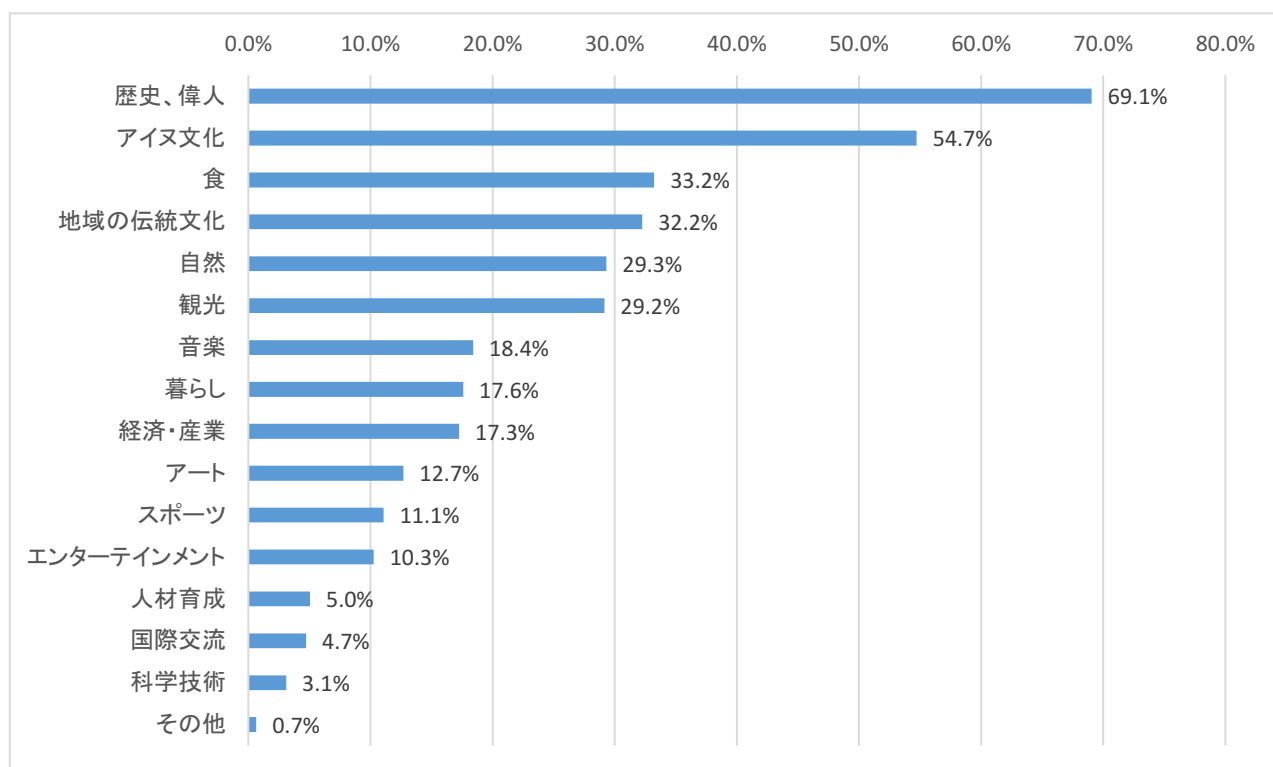
(「その他」の記載内容)

- ・「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 一見る、集める、伝える」(北海道博物館特別展)
- ・その他松浦武四郎に関する取組
- ・北海道150年記念ポスト(日本郵便株式会社北海道支社)
- ・北海道みらい地図(北海道教育委員会)
- ・道庁赤れんがプロジェクションマッピング「KAMORI Wonder Lights 大地」(加森観光株式会社)
- ・北海道150年記念ダムカード(北海道建設部、北海道企業局) など

【3】北海道150年事業を通じて、北海道の魅力や価値について、改めて「理解が深まった」「以前より興味・関心が高まった」と考えられるものの有無(n=880)



【4】3で「ある」を選択した内容(複数回答)(n=614)



(「その他」の記載内容)

- ・北海道の未来像について真剣に考える機会になった。
- ・北海道全域の取組内容を見て、偏りがある内容になってしまったと思った。
- ・各地で色々な事業を実施しようとする個人団体がいることを知り、地方も元気だなと感じた。 など

【5】北海道150年事業についての意見、感想(自由記載)

<自ら実施・事業に参加した方々>(n=154)

- ・この事業を通じて、北海道150年の歴史と文化に触れるとともに、更にこの150年よりも深いアイヌの歴史と文化を改めて知ることができた。
- ・様々なジャンルや観点からの北海道の魅力の深耕や再発見の機会を数多く得ることができた。
- ・若い人たちに様々な情報を提供できたことで、郷土愛の醸成に大きく貢献したように感じている。
- ・歴史を学び、先人の労苦を痛感したので、後世に残せることを今のうちから考え、何か行動したいと考えている。
- ・オール北海道での取組は良い機会であり、今後も「つながり」を意識した取組を企画されることを期待する。
- ・高校生が製作した「北海道みらい地図」を見て大変感動しました。赤れんがでいつも見られるようにしていただければ嬉しいなと考えました。
- ・北海道みらい事業に参加させていただいたが、もっと事務局や地元振興局と協力できる仕組みがあったら(作れたら)良かったのかもしれない、と思う。
- ・道内での事業の広まりは確かで、盛り上がりを感じましたが、道外でのプロモーションはもう少し充実させても良かったような気がしています。

<知っていたが不参加・知らなかった方々>(n=100)

- ・北海道命名150年の盛り上がりよかったです。各地域でもちなんだイベントもあり素晴らしかったです。
- ・150年や200年という節目だけではなく、北海道を愛する気持ちを道民が持ち、さらに発展していけるものを継続的にできればと思います。
- ・札幌市だけで加熱し完結している印象を受けました。
- ・イベントがどこでやっているかなど、もう少しいろいろなところで周知をしていただきたかったと思いました。